

令和7年度

広報広聴委員会行政視察報告書

▶ 視察日程

令和7年9月30日（火）～10月1日（水）

▶ 視察事項（視察先）

- （1）「未来を話そう！はつかいち子ども議会」について
（広島県廿日市市）
- （2）若者議会について（愛知県新城市）

▶ 視察参加者

【委員】	委員長	柳瀬	秀明
	副委員長	藤井	洋
	委員	木原	愛子
	委員	三浦	徹也
	委員	森	良介
	委員	山根	栄子

【事務局】	岩見	直子（随伴）
-------	----	--------

目 次

- 1 「未来を話そう！はつかいち子ども議会」について
（広島県廿日市市） 1
- 2 若者議会について（愛知県新城市） 4
- 3 視察を終えて（各委員の所感） 7

「未来を話そう！はつかいち子ども議会」 について

- 1 視察日時 令和7年9月30日（火）
13時00分～14時30分
- 2 視察場所 広島県廿日市議会
- 3 視察先対応者 経営企画部プロモーション戦略課、議会事務局

4 視察の概要

（1）廿日市市の概要

廿日市市は広島県南西部に位置し、世界遺産厳島神社を擁する宮島があることで知られる観光都市。

瀬戸内海の豊かな海と、中国山地の緑に囲まれた自然豊かな環境が特徴で、木材産業が盛んなけん玉の発祥地としても有名で、広島市のベッドタウンとして発展し、利便性と歴史文化が調和した魅力的な街である。

（2）「未来を話そう！はつかいち子ども議会」について

▶「未来を話そう！はつかいち子ども議会」とは？

廿日市内の中学校に通う子どもたちが、子ども議員として廿日市市の未来を考え、語る場。まちづくりを考え、魅力的なまちづくりに向けた提案や提言を行う。

▶開催の目的

- 行政や議会の仕組みを学び、子どもたちの市政への関心と参画意識を高める。
- 子どもたちが魅力的なまちづくりに向けた提案・提言を行うことを通じて、自分の考えや思いを相手に伝えることができる力を育成する。
- 中学生のみずみずしい感性と若い視点を市政に取り入れる。



▶全体スケジュール

【議員募集】

市立・県立・私立の12校に通知。市ホームページに掲載。

※2024年は市立・私立から11名立候補。

【スタートアップミーティング】

テーマ：子ども議会を知ろう、廿日市市のまちづくりを学ぼう

内容：自己紹介、廿日市市のまちづくりについての講義。

先輩子ども議員からアドバイス

【第1回プレ学習会】

テーマ：議会について学ぼう

内容：議会の制度と役割について学び、議場での所作や質問の仕方などのイメージをつかむ。（市議会議員が議会制度を説明、市議会の一般質問を視聴、議場見学）

市長、市議会副議長、教育長が子ども議員を激励。

【第2回プレ学習会】

テーマ：一般質問をつくろう（グループで話そう）

内容：議員も交え、3つの班に分かれてグループワーク。

各自で考えてきた質問書をグループに分かれてブラッシュアップする。

【第3回プレ学習会】

テーマ：リハーサルをしてみよう

内容：議場での入退場、質問台への移動、質問の仕方など、初めに市議会議員による実演を見て学び、その後、本番同様に1人ずつ質問書を読み上げて流れや動きを確認。

【子ども議会（本番）】

一般質問の持ち時間は1人10分。執行部が答弁する。

▶当日の参加状況

≪議会出席者≫

- ・子ども議員（市内各中学校から1名）
- ・市議会2名（議長、事務局長）
- ・執行部（市長、副市長、教育長、各部長）

≪傍聴者、視聴者≫

- ・保護者 ・先輩子ども議員 ・一般傍聴者 ・学校関係者
- ・市議会議員

※保護者のみ傍聴席で、保護者以外は別室でモニター視聴。

≪報道≫

- ・FMはつかいち

≪事務従事者≫

- ・プロモーション戦略課 ・経営政策課 ・議会事務局 ・学校教育課

▶その他

- ・学校側の負担軽減に配慮し制度設計。
- ・スタートアップミーティングやプレ学習会終了後にニュースレターを作成し、各学校に配付。
- ・参加者（子ども議員、保護者、執行部）から感想・意見を聞き取るためアンケートを実施。いただいた意見を次回開催に生かす。
- ・FMはつかいちラジオ出演。
- ・映像収録DVDを子ども議員及び学校に記念品として渡している。

5 主な質疑応答

Q 議員募集の条件や選考方法は。

A 議員募集は学校に一任しており、条件等は特に指定していない。

Q 今後の課題は。

A 質問の内容が学校のことばかり、中学生の要望の場になってしまう傾向にあるため、スタートアップミーティング・プレ学習会で『子供、大人、外国の方、障害のある方など、みんなのためを考えて質問をしてみよう』という投げかけをした。



若者議会について

- 1 視察日時 令和7年10月1日（水）
13時30分～15時00分
- 2 視察場所 愛知県新城市議会
- 3 視察先対応者 市民協働部市民自治推進課、議会事務局

4 視察の概要

（1）新城市の概要

新城市は、愛知県東部、東三河の中央に位置する「山・里・街」が共生する都市。国定公園の鳳来寺山や長篠・設楽原の戦い跡など、豊かな自然と歴史資源を併せ持つ。近年は新東名高速道の開通により、交通の要衝としても発展。持続可能な地域づくりを目指し、「共生」を掲げる、四季折々の風景が美しい街である。

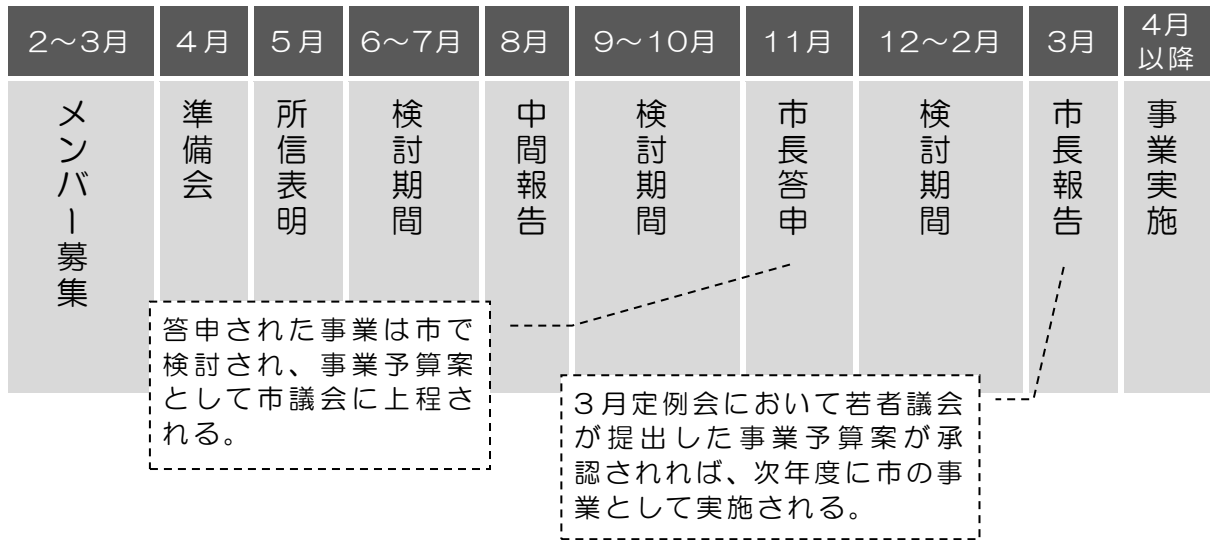
（2）若者議会について

▶新城市若者議会とは？

位置付け	平成27年4月1日施行の「新城市若者条例」「新城市若者議会条例」に基づく市長の附属機関。 予算提案権を持ち、若者自らが自分のまちのことを考え、政策立案する。
趣 旨	若者総合政策を実施していくにあたり、その実効性を担保していく。 新たな若者の参加の仕組みを構築し、若者が活躍するまちを目指す。 *若者総合政策とは… 市民全員が元気に住み続けられ、世代のリレーができるまちを実現するために、若者の思いや意見をカタチにし、若者が活躍できるまちにするための政策。
機 能	市長の諮問に応じ、若者政策について話し合う。 政策を立案し、市長に答申する。

委 員	構成：委員（定員20名以内）
	市外委員（定員5人）
	メンター市民
	メンター職員
	事務局（市民自治推進課）
	任期：1年（再任可）
報酬：3,000円/日	
資格：市内在住・在学・在勤いずれかで、おおむね16歳から29歳まで。	

▶ 若者議会の1年の流れ



▶ 若者議会提案事業実績

答申年度	実施年度	事業数
H27	H28	6
H28	H29	7
H29	H30	10
H30	R1	6
R1	R2	3
R2	R3	4
R3	R4	4
R4	R5	3
R5	R6	3
R6	R7	4

< 事業名（一例） >

☞ **ふるさと情報館リノベーション事業**
 新城図書館（ふるさと情報館）の2階にある郷土資料室を、学生が勉強したり気軽に集まり話せる多目的空間にリノベーション。休憩コーナーやソファ席も設置。

☞ **ぶかつなぎ事業**
 地域で活動する団体と市民を、幅広く捉えた趣味という枠組みによって繋げ、市民同士が交流し合えるよう、地域で活動する団体を知るきっかけとなる新城市趣味活サイトを作成。

▶ その他若者を対象とした取組

① 新城市若者チャレンジ補助金

若者が主体となって新城市を盛り上げるためにチャレンジする事業に対して交付する補助金

・補助額：上限20万円

・活用事例：映画上映会、お祭りイベント、ダンスイベント など

② つながる地域と若者の輪

中学生が新城市をより良くするためのアイデアを考える1日限りのワークショップイベント。

出たアイデアは、地域協議会に共有され、そのアイデアを具現化したい場合は、地域自治区予算等で実施してもらう。

5 主な質疑応答

Q 議会との連携、関係性は。

A 1～2月頃に意見交換の場を設けている。

Q 募集方法や選考方法は。

A 一般公募で、市広報・ケーブルテレビで案内、市内の高校にチラシ配付依頼、住民基本台帳から無作為に500名選び案内を送付、公共施設等にポスター掲示。今年度は試験的にSNS広告を検討している。

定員を超えた場合は書類選考となり、熱意・意欲・主体性等5つの評価項目で評価し決定している。

Q 情報発信の方法や工夫している点は。

A 市長答申についてはケーブルテレビで放送、市のYouTubeにもアップ。また、市のホームページとは別に、若者議会のホームページも委託で作っており、若者議会の様子をブログ形式で投稿している。

Q 任期は1年で再任は妨げないとなっているが、再任された方はいるか。

A 2～3年参加される方は多い。最高で4年委員を務めた方がいる。メンター市民として参加してくださる方もおり、9年関わってくださる方もいた。卒業した後、市の他の会に参加してくださる方もいる。

Q どのような影響や効果があったか。

A 知らなかった新城市の魅力に気づくことができた、市政を身近に感じる事ができた、若者議会を通じて成長できたといったご意見をいただいている。



視察を終えて

委員長 柳 瀬 秀 明

■ 廿日市市

・ 執行部からはシティプロモーション課、議会からは議会運営委員長から丁寧な説明をいただいた。

「はつかいち子ども議会」は市長のマニフェストとして、中学生を対象として執行部主催で開催しているとのこと。

・ 開催の目的は、「①行政や議会の仕組みを学び、子どもたちの市政への関心と参画意識を高める。②子どもたちが魅力的なまちづくりに向けた提案・提言を行うことを通して、自分の考え方や思いを相手に伝えることができる力を育成する。③中学生のみずみずしい感性を市政に取り入れる。」等を目的としており、子どもたちへ市政に対して関心を持たすだけでなく「子ども議会」を通して、はつかいち愛の醸成や人材育成に取り組む姿勢を強く感じました。

・ 議会としては、「子ども議会」開催までの準備として、子ども議員の一般質問のサポートを議会運営委員会のメンバーが担い、3回にわたるプレ学習会に参加しております。プレ学習会では議会の仕組みや質問書作成のアドバイス等を行っており、議員も子どもたちとの交流を通して良い刺激を受けているようです。成果として、子ども議会までの過程に議員が関与することで、議員の仕事の疑似体験により、議会や議員への関心を高めることに繋がったとのことでした。

・ 最後に廿日市市議会も、下松市の「高校生との意見交換会」への関心があり、本市の取組についても意見交換させていただきました。子どもの視点からの意見は参考になることも多く、廿日市市の取組を参考にして更に子どもたちとの意見交換の場を広げてまいりたいと思いました。

■ 新城市

・ 新城市は視察日の本年 10 月 1 日に市政 20 周年を迎えました。新城市は当初人口約 5 万人から、現在約 4 万人まで人口減少したとのことでした。新城市は危機感から人口減少対策として、新城市自治基本条例「市民が主役のまちづくりを推進し、元気に住み続けられ、世代のリレーができるまちを協働してつくる」を土台として、「若者が活躍するまち」づくりを目指して「新城市若者議会」を市長の附属機関として立ち上げております。

・ 「若者議会」は市長が変わっても若者議会が続けるようにと、新城市若者

条例と新城市若者議会条例を制定しており、平成 27 年に第 1 回新城市若者議会を始動しており、10 年目を迎えております。

- ・新城市若者議会は、市長の附属機関として年間 1 千万円の予算提案権を持っております。参加構成は、委員定員 20 人、市外委員定員 5 人、メンター市民、メンター職員、事務局(市民自治推進課)のメンバーで構成されています。委員は任期 1 年(再任可)、報酬は 3,000 円(/日)、市内在住、在学、在勤のいずれかで、概ね 16 歳～29 歳までの人が対象となっています。

- ・若者議会始動より 10 年目を迎えて成果について尋ねると、毎年提案がカタチとなっており、若者議会を卒業した OB、OG がメンター市民となり、後輩のサポートをしているとの事です。これまでに若者議会の卒業生から、市議会議員 3 名(他市を含む)、市職員など輩出されており、若者が自分のまちの事を真剣に考えており素晴らしい取り組みだと感じました。

更には「若者議会」について説明していただいた職員自身が「若者議会」の卒業生とのことで新城市を盛り上げようと熱い思いが伝わってきました。

- ・市議会としては、年一回若者委員との意見交換会をされて議員も刺激を受けているとのことです。本市においても、この度学んだ事を活かして、議会として若者の思いや意見をカタチに出来るような仕組みを考えていきたいと思えます。

副委員長 藤 井 洋

■ 廿日市市

廿日市市において、子どもに市政への関心を持ってもらうこと、また、将来の議員を目指してほしいことなどから市長の選挙公約としてこの事業が始まった。市内の中学校からそれぞれ 1 名の代表者を選んでもらい開催していた。本番までに複数回の学習会が行われ最後の学習会では議場において議員による模範実演、アドバイスなどが行われる。質問内容は市の未来を考えた内容が多く感心させられた。答弁については執行部が行い再質問をする生徒もいた。子どもたちの感想として、議会への関心理解が深まった、廿日市の魅力を再認識できた、貴重な体験ができてよかったなどが多く見られた。我々も毎年、高校生との懇談会を開催しているが、廿日市市の子供も議会は執行部が中心で議会はそのお手伝いとなっており、本市でもぜひこのような形での開催を検討してみたいと思った。

■ 新城市

将来、消滅の可能性があるといわれた新城市は若者が活躍するまちを目指し若者議会条例を策定した。若者議会は予算提案権を持ち若者自らが自分のまちを考え、政策立案する市長の附属機関である。予算は1000万円と破格であった。議会のメンバーは基本1年交代で市内外の16歳からおおむね29歳までの若者で構成されており、メンバー募集から始まり様々な検討会を行い市長への報告書が作成されていた。市長へ答申された事業は翌年度に各担当課により実施される。10年間で40もの事業が実施されており、新城市を市外へPRする事業や若者が暮らしやすいまちを目指した事業が多く見られた。若者議会のメンバーにはのちに市職員や市議会議員になった方もおられた。今後、本市においても人口減少は避けられず、市の活気を保つためにも若い人材の育成は不可欠である。ぜひとも取り入れていくべき事業だと感じた。

委員 木原 愛子

■ 廿日市市

子ども議会については、市長のマニフェストで、始まったとのこと。

子ども議会開催前には一般質問のやりとりを動画で見てもらいグループワークになってブラッシュアップしてもらい議運は傍聴をして、こうしたらいい等アドバイスをしながら当日を迎えるとのこと。下松市の高校生と議会の懇談会では事前準備を高校生としていないため参考になるお話でした。

将来この中から市議会議員になる子が出たらいいな、投票率あがるといいなと願っているとのこと。共感しました。

参加した子どもの保護者は良かったと言いつい議会だよりをみるようになりました、とも言われているようで、子ども議会の取組が子どもを通じて親である保護者へも影響が出る事は選挙の投票率へ繋がるだけでなく議会に興味を持って頂くきっかけになることを改めて説明頂きながら感じました。

下松市議会においても参加する子どもの保護者へ積極的な傍聴の呼びかけを行っていけるよう頑張ってください。

廿日市市の視察は、子どもだけでなく、大人の心も動かす子ども議会であるものが多く今後の下松市議会広報広聴委員会の活動に生かしていきたいと思いました。

■ 新城市

若者議会については日本初の若者議会ということで新城市が特に力を入れておられ全国から80以上の自治体から視察が来ているとのことでした。きっかけは「新城市の若者と海外へ行った際に若者が自分たちのまちの紹介すらできなくて悔しい思いをし新城市の若者をどうしていくべきかと考えていたところボランティア団体の活躍をみていた前市長が若者の活躍を見てパワーをもらった。がしかし、消滅可能性都市に愛知県で選ばれてしまった。だからこそ若者の意見を生かしていくべきだ、と若者が活躍できる町を作ろうとした。」ということでした。

「市長がかわっても若者政策が続いてほしい」と思い、若者条例と若者議会条例を作られています。そしてこの若者議会を経験したOBやOGの方にもアンケートを実施し、反省点をふりかえり第二次若者総合政策を作っているとのこと。

若者議会では若者議会Tシャツやチョッキを着る等も行っているとのこと、盛り上げている事がよく伝わりました。また若者議会に関わった卒業生が現在、市職員として、また、他市にて市議会議員になられていたり、進学を行政とは全く関係ないコースを選択していたが若者議会に参加後、急遽、行政関係のコースの選択へと進路を変えた方もいたとのことがあり、若者が納得できる、若者が実感できる若者議会を行い取り組まれているなと思いましたので今後、下松市議会のこれまで行ってきた高校生と議会の懇談会をどうしていくべきなのか改めて考える素晴らしい視察でした。

委員 三 浦 徹 也

■ 廿日市市

広島県廿日市市において実施されている「はつかいち子ども議会」を視察した。実際の本会議場を用い、子どもたちが自らの視点で市政に関する提案や質問を行う姿は大変印象的であり、議会への関心と主体性を育む貴重な機会であると感じた。特に、執行部が真摯に答弁を行い、その意見を政策に活かす姿勢は、子どもたちにとって大きな励みとなると同時に、議会の存在を身近に感じさせる取り組みであると考えている。

廿日市市では、この活動を広報媒体で広く周知し、地域全体で子どもの発言を受け止める仕組みを整えており、議会が市民に開かれた場であることを示す良い事例となっていた。こうした姿勢は広報広聴の観点からも大変参考になり、議会活動の理解促進や市民との距離を縮める効果を持つと考える。

下松市においても、将来を担う子どもや若者が議会や市政に主体的に関わる機会を設けることは重要であり、市民参加の裾野を広げる第一歩となり得る。今回の視察で得た知見を踏まえ、広報広聴委員会として子どもや若者との対話の場を検討するとともに、市民が議会に関心を寄せ、共にまちづくりを進められるような取組へとつなげていく必要がある。

■ 新城市

愛知県新城市における「若者議会」の取組を視察した。新城市では、平成27年度から若者自身が政策を立案し、市長へ提案する仕組みを制度化しており、全国的にも先進的な事例として注目されている。視察では、担当職員から制度の概要説明を受けるとともに、実際に若者議会の運営に関わった経験者から生の声を聴くことができた。

印象的だったのは、若者が単なるイベント的な参加ではなく、年間を通じて政策形成のプロセスに主体的に関わっている点である。議会の仕組みを学び、課題の発見から提案、予算反映に至るまでの流れを実践しており、行政や議会との信頼関係のもとに運営されていることが伝わった。また、市が若者の意見を真摯に受け止め、一定の裁量と責任を与えている姿勢も印象深い。今回の視察を通じて、若者が地域の課題を自分事として考え、まちづくりに参画する仕組みの重要性を再認識した。下松市においても、若い世代がまちづくりに関心を持ち、意見を発信できる環境づくりが求められる。今後の広報広聴活動においても、市民と議会をつなぐ仕組みの一つとして参考にしていきたい。

委員 森 良 介

■ 廿日市市

はつかいち子ども議会は、市主体で開催され担当課の業務の一環として展開されている。「子どもが主役のまち はつかいち」という理念のもと、子どもたちに市政への関心と参画意識を深めてもらうことを目的に企画された。市内の中学校に通う子どもたちが「子ども議員」として選出され、実際の市議会の本会議場で、廿日市市の現状や課題について発表し、市長に直接質問や提案を行う。教員の負担も少ない。よりリアルな議会になるよう子どもたちは本会議だけでなく、事前に行う数回の「スタートアップミーティング」や「プレ学習会」を経て子ども議会の準備過程から本会議までの一連の流れを学び、中学生にとって行政や議会の役割、政策形成の仕組みを理解す

る貴重な学習体験となる。さすがに市が主体だけあって綿密かつ完成度が高く、子どもが主役を謳うだけあって取組も具体的だったが、議会は全く関わりがない。当市は議会が主体だけあってここまで踏み込めない印象だけが残った。当議会としては現在進めている高校生と議会の懇談会をいかに進歩させ、厚みを与えるに注力するかだ。

■ 新城市

新城市ではニューキャッスル・アライアンス会議を経てヨーロッパでは当たり前の若者議会を目の当たりにし、帰国後、若者の意見を反映できる場の必要性を感じ、ボランティア団体を立ち上げた。市長のマニフェストの一つとして「若者が活躍するまち」を目指した。市長が変わっても若者議会が継続してほしいとの思いで「新城市若者条例」と「新城市若者議会条例」を策定し平成27年に始動。公募で集まった16歳から29歳までの若者委員で構成され、任期は1年。予算提案権を持ち若者自ら予算の使い道を考え政策の立案をする。市長は答申を受け議会の承認を得られれば事業化できる。とても取組としては秀逸だが、課題も多いと考える。他の若者への認知不足や、委員の継続性、自らの生活サイクルとの両立はモチベーションにも影響（会議は19:00~21:00）、事業成立以降のかかわりのなさなど考えられる。しかしながら、世代のリレーは実際に形となって現れている。座学の進行役の職員は若者議会出身であり特筆すべきであるが、振り返ると新城市の若者議会も市の事業として成り立っているため、議会とのかかわりは全くない。当市は議会が主体だけあってここまで踏み込めない印象だけが残った。当議会としては現在進めている高校生と議会の懇談会をいかに進歩させ、厚みを与えるに注力するかだ。

委員 山根 栄子

■ 廿日市市

廿日市市議会は令和4年市長選において市長公約のもこの事業に力をいれ取り組まれるようになってきた。行政・教育委員会・議会が協力して実施、市内の中学校から各1名を選出し、議会で質問をするというものだ。今年で4回目を迎えるため、はじめにこれまで経験してきた先輩子ども議員が、今年初めて体験する中学生に色々な体験談等を語り合う機会をもたせ、当日の議会に臨むまで計4回の事前準備、打合せ等を行う。その際議員が発言等のアドバイスをしたり、子ども議員から出される通告を基により積極的な答

弁となるよう、執行部は準備をする。

質問内容も昨年までは中学生の生活の身の回りに視点を置いたものが多数を占めていたが、今年はより多くの方が幸せになる視点は何かというアドバイスをし、より広く、深い視点での質問となってきたとの事。本市は主体が議会にあり執行部からの答弁が行われないため、提案に対して勝手に答弁することはできず、そこに制限がかけられいつも歯切れの悪い答弁となりがちだが、廿日市では市長部局が主体となる事業のため答弁が非常に明確である。今後の本市の取り組みの参考となった。

■ 新城市

新城市は若者が市政に対して意見を述べることができる機会を確保し、市政に反映するよう努めるための「若者条例」が制定されている珍しい自治体である。この取組がはじまり既に10年が経過している。毎年若者議会から提案された意見に対し1千万の予算が付き、これまで合計で約6,000万円の事業となっている。これに対し賛否両論の意見はあるものの、一番の成果はやはりこの事業に参画した若者が大学に行き、市役所職員となっていたり、市議会議員となっていたり、地元で活躍する未来の地域を担う人材を確実に育てている所にあると思う。当然地域活性化や、様々な若者の視点での取組がなされているのも興味深い。歴代の首長がこの事業は未来を託す人材育成にあるとし、これまで継続してきた事を評価したい。来月市長選が行われるが今後どう変わっていくのか興味深い。本市においても高校生と議会の懇談会や小中学生との意見交換会等実施されているが、より若者の声の実現できる下松市になるべく取り組みたい。しかしこれほど積極的な取り組みをしている新城市においても、この事業に参画してくれる若者の確保には苦戦している様子で、特に大学がなく29歳までを対象としているため、高校生以上の年齢層の人材確保には苦労している様子が伺えた。しかし振り返って本市にそれができるかと考えたとき人材の獲得に困難をきたす事は容易に想像できる。それ程若者の地元愛を育み、地域の力に変える取り組みは大変であると言える。